

第3学年 総合的な学習の時間 学習指導案

奈良教育大学国語教育専修3回生 川田 大登

(三木町立三木中学校3年生を想定)

1. 単元名 いにしへの歌に仮託して自分の思いを伝えよう

2. 単元の目標

- ・自分の思いを伝えるために万葉集や地域について探究する過程において、万葉集や和歌、それにこめられた人々の思いを知ることができる。 [知識及び技能]
- ・学校にある万葉歌碑のように、自分の思いを万葉歌碑で伝えるために、自ら、伝えたい思いやそれを伝えるための歌、場所の情報を集め、分析して、決定し、自分の万葉歌碑として表現することができる。 [思考力、判断力、表現力等]
- ・進んで万葉集の和歌に触れ、学習計画に沿って和歌にこめられている、いにしへの思いを考え、自分の考えと結び付けようとしている。 「主体的に学習に取り組む態度」

3. 単元について

(1) 教材観

『万葉集』は奈良時代後半に成立したとされる現存最古の歌集である。編纂者は大伴家持との説もあるがはっきりしない。全20巻、約4500首からなり、その多くは編纂者によって、雑歌・相聞歌・晩歌に仕分けられている。

巻1の巻頭は5世紀の大君、雄略天皇の御製であり、巻20の巻末は大伴家持の759年正月一日で最も時代が下った時点での歌である。つまり、約300年間に詠まれ、奈良時代後半に編者にまで伝わった和歌の中で編纂されたのが『万葉集』である。

『万葉集』に直接的な記述がある『柿本人麻呂集』をはじめとして、先行歌集の存在は想定されるものの、現在まで脈々と読み継がれて、現存している最古の歌集は『万葉集』である。これを読むことの価値は、万葉人の感じ方や考え方に直接触れられる点にある。例えば、「春過ぎて夏来たるらし白たへの衣干したり天の香具山」という歌から想定される空の青と山の緑、そしてそれに映えている白という情景が想像される。これによって約1300年前の人々と今を生きる私たちの感性はつながっているのだと、感じることができる。

このような『万葉集』は書物としてのみ受け継がれてきているわけではない。曲に載せられたり、「万葉歌碑」として受け継がれたりしている。その万葉歌碑はもちろんその歌に詠みこまれている場所やゆかりがある場所に置かれていることも多いが、そうではない場合もある。それは、その歌に込められた思いに共感して、その思いを訴えるために置かれているものであり、それこそが本単元で扱う、三木中学校の万葉歌碑である。

(2) 生徒観

生徒は第1学年で「食」をテーマとした地域学習を行い、第2学年で進路や職業選択を見据えて地域の企業等において職場体験活動を行った。このような中学校での地域に根差した学習は小学校での学習と相まって、生徒の学習や進路選択の基盤となっている。

一方で、古くから農村地帯であった三木町では、地域史を軸にして歴史を学ぶことが難しく戦国時代以前の時代と現代とでつながりを感じている生徒は少ない。また、地域を肯定的に受け止めている生徒は多いが、地域の存在は当たり前であって、それを改めて振り返り、考える機会は中学3年生となった今、多くないように思われる。

(3) 指導観

本単元では、万葉集を身近に感じさせるために、校庭にある万葉歌碑から学習を始める。本校の校庭には山上憶良が詠んだ「子を思う歌」を万葉仮名で書いた石碑が置かれてある。それは、本校出身の生徒が交通事故で亡くなるという不幸があった際、「子どもを失う悲しさ、子どもを愛おしく思う親の気持ちを、どうか子どもたちに伝えてほしい」というお父様からの強い願いが発端となり、それに賛同された地域の方々から寄付金をいただき「交通安全祈願の万葉歌碑」とすることになったそうである。生徒たちはそのような経緯はおろか、万葉歌碑があることさえ知っている者は少ない。そのため、その写真を提示し、この学校のどこにあるかを当てさせて、興味を持たせるところから始めたい。

その上で、漢字ばかりで表記されているこの歌碑の内容に注目させる。一般的に教科書では万葉歌を書き下ししたものが出ているが、あえてそのまま提示することで万葉仮名という表記方法に出会わせる。ただ単に万葉仮名を説明するだけでは、古典に対する苦手意識を持つ生徒の興味は離れてしまうため、書き下しに解説することに挑戦することができるようなプリントを用意して、ゲームのような感覚で学習をさせる。

このようにして、興味を持たせたうえで、この歌が長歌に対する反歌であることを踏まえて、長歌と合わせた形で意味や背景を学習した後、創立 60 周年記念で出されたパンフレットにある説明などから、この歌碑が置かれている理由を理解させる。

ここで、「なぜ、このような思いを伝えるために万葉歌碑をつくったのだろう」と、伝える手段が看板でもなく、わかりやすいスローガンでもないことに注目させる中心発問を行う。三木中学校にある子を思う歌に込められた想いと、この歌に作者がこめられたらう想いとを比較しながら考えさせる。それによって、時代を超えて、価値観に共通する点があることに気付かせたい。

次に、その発問にある「万葉集」とは何でどのような和歌があるのかをその歌に込められた想いに着目しながら、理解させる指導を国語科において行う。

そして最後に、その作品に含まれた思いと自分の知識や経験等を照らし合わせて考えるために、学習した和歌の中から、自分が共感出来たり自分の思いと重なったりする和歌を一首選ばせるとともに、それを万葉歌碑にするならば、どの場所にどのような思いで置くかを考える学習を行う。実際に万葉歌碑を作っておくことは難しいので、自分が万葉歌碑を置きたい場所の写真を撮って、その上に万葉仮名で書かれた万葉歌碑のイラストを挿入することによって作品とした。

このような学習を経て、時代を超えて人々の思いや価値観には共通する点があることに気付かせたい。そのことが、自分の地域や学校、家庭において醸成される思いを万葉歌で表し、その場所の写真と重ねることによって、自己や家庭、学校や地域を見つめ直すことにつながり、万葉集にあるいにしへの想いと自分の想いとを結びつけて考えさせることができる。

(4) ESD との関連

・本学習で働かせる ESD の視点 (見方・考え方)

多様性

万葉集に収められている和歌の学習を通して、それやその作者は多様であるとともに、その一つ一つの歌を鑑賞したことによって生まれる思いも多様である感じる。

・本学習を通して育てたい ESD の資質・能力

つながりを尊重する態度

自分の万葉歌碑をつくる活動を通して、和歌に対して自分の思いを持ち、それを詠歌状況や

背景と比較することによって、万葉集の和歌から読み取れる万葉人の価値観や考え方には今と共通するものがあるということを感じる。

進んで参加する態度

和歌との関わりはカルタや鑑賞など、座学で行い「教科書の中のもの」というイメージがつきまといがちだが、和歌との関わりは自分自身の思いや自分の地域にもあるということをつかきかけに、学習に意欲的に取り組み、伝統的な活動や文化、また言葉に興味を持つようになること。

・本学習で変容を促す ESD の価値観

人権・文化の尊重

和歌との関わりはカルタや鑑賞など、座学で行い「教科書の中のもの」というイメージがつきまといがちだが、和歌との関わりは自分自身の思いや自分の地域にもあるということを知り、伝統的な活動や文化、また言葉に興味を持つとともに、古典をよくわからないものではなく、先人から受け継いできた価値あるものと捉えられるようになること。

・達成が期待される SDGs

4. 質の高い教育をみんなに (4.7 文化の持続可能な開発への貢献の理解)

11. 住み続けられるまちづくりを (11.4 文化遺産の保護・保全)

4. 単元の評価規準

知識及び技能	思考力・判断力・表現力等	主体的に学習に取り組む態度
・自分の思いを伝えるために万葉集や地域について探究する過程において、万葉集や和歌、それにこめられた人々の思いを知っている。	①学校にある万葉歌碑のように、自分の思いを万葉歌碑で伝えるために、自ら伝えたい思いやそれを伝えるための歌、場所の情報を集めている。 ②それらを分析して、決定し、自分の万葉歌碑として表現している。	・進んで万葉集の和歌に触れ、学習計画に沿って和歌にこめられているいにしへの思いを考え、自分の考えと結び付けようとしている。

5. 単元の指導計画 (12 時間)

	学習活動	指導上の留意点	評価
一 次 ③	◎校庭の万葉歌碑、「子を思う歌」と出会い、和歌には詠まれた背景や思いがあり、三木中の関係者にもその和歌に自分の思いを託した人たちがいることを知る。 ・万葉仮名を学び歌碑を解説する。(班)	・一字一音の表記がされている部分を虫食いにした学習プリントを	

	<ul style="list-style-type: none"> 和歌の作者や読まれた背景を長歌とともに学習する。(全体) 歌碑が置かれた背景を調べ、設置者がこの和歌に自分の思いを託していたことを知る。(全体) 	<p>用意し、班で話し合いながら進める。</p> <ul style="list-style-type: none"> 創立 60 周年記念で出されたパンフレットを配布する。 	
二次 ③	<p>◎複数の万葉歌をその作品に含まれた思いを考えながら鑑賞する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 提示された和歌を鑑賞する。(全体) 作者についての調べ学習を行う。(個人)(班) <p>和歌の意味や背景を学習する。(全体)</p>	<ul style="list-style-type: none"> 三次の活動を踏まえて、生徒にとってわかりやすく、考えやすい歌を選ぶ。 作者については班で調べ学習を行い、作者プロフィール帳にまとめることで、学習意欲の低下を防ぐ手立ての一つとする。 	ノート 知識・技能
三次 ⑥	<p>◎自分の万葉歌碑を立てよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> 学習した歌や補助教材の中から、最も自分が共感したり、考えを持ったりした和歌を選ぶ。(個人) その歌碑を置きたい場所を探し、写真を撮る。(個人) 万葉仮名で歌碑を作成する。(個人)(班) グーグルマップをイメージしたデジタル地図に作品を挿入する。 置きたい場所の画像に歌碑を挿入し、万葉歌碑をつくり、自分がその歌碑に託した思いを書く。(個人) お互いの歌碑やそれに託された思いを読んで、感想をもつ。(全体)(個人) 	<ul style="list-style-type: none"> 教師の例を示す。補助教材として、井上さやか『マンガで楽しむ古典 万葉集』を用いる。 学校の中でも住んでいる地域でも良いことを伝える。 新全集や中西進『万葉集 全訳注 原文付』(講談社文庫)等の写しを配布し、説明したうえで、みずから作成する。班で協力して全員が作成できるようにする。 	<p>ワークシート 思・判・表① 作品 思・判・表②</p> <p>観察・ワークシート 主体的に学習に取り組む態度</p>